

横浜市感染症発生動向調査報告 2月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの流行警報が発令されています。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈2月期に報告された全数把握疾患〉

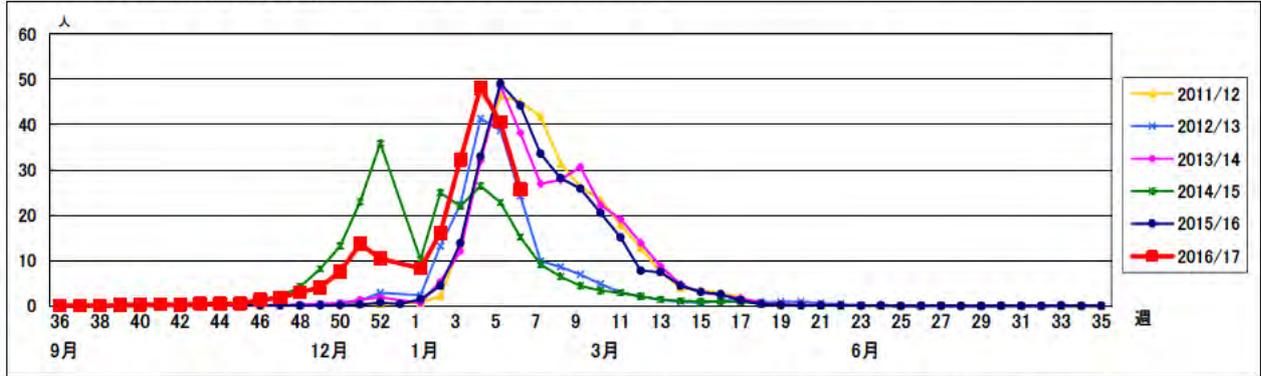
腸管出血性大腸菌感染症	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	1件
ウイルス性肝炎(E型及びA型肝炎を除く)	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	8件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	梅毒	4件
急性脳炎	2件	風しん	2件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O不明の報告が1件ありました。韓国での経口感染が疑われています。
- 2 アメーバ赤痢: 2件の報告(腸管アメーバ症1件、腸管外アメーバ症1件)がありました。感染経路は、国内での性的接触(異性間)が1件、感染経路等不明が1件でした。
- 3 ウイルス性肝炎(E型及びA型肝炎を除く): 1件のC型の報告があり、感染経路は針刺しが疑われています。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 5 急性脳炎: インフルエンザAによる幼児の報告が1件、病原体不明の10歳代の報告が1件ありました。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2件が報告され、うち1件がB群で、1件はG群でした。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 性的接触(同性間)による無症状病原体保有者の報告が1件ありました。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症: 30～80歳代の8件の報告があり、うち1件はワクチン接種歴を確認できましたが、7件についてはワクチン接種歴を確認できませんでした。
- 9 梅毒: 4件の報告(無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒 I 期3件)がありました。いずれも国内での感染で、男性3件、女性1件でした。感染経路は、異性間性的接触が3件、詳細不明の性的接触が1件でした。
- 10 風しん: 2件の報告がありました。1件はインドネシアでの感染、1件は感染地域不明です。いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。

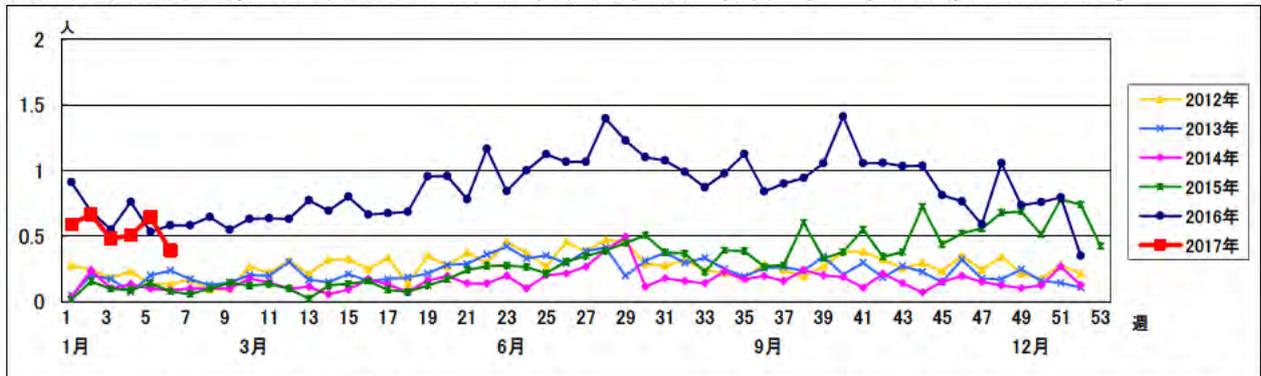
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第4週	1月23日～1月29日
第5週	1月30日～2月5日
第6週	2月6日～2月12日

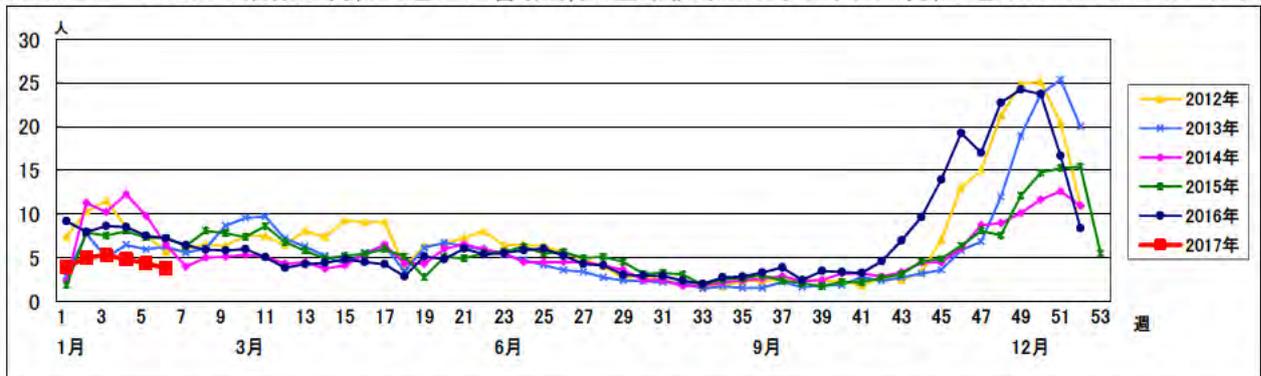
- 1 インフルエンザ: 第46週で定点あたり1.39にて流行入り、第51週で13.67にて注意報発令、第3週で32.23にて警報発令となりました。第4週の48.06以降、漸減傾向にあり、第6週は26.65でした。



- 2 流行性耳下腺炎: 第6週で定点あたり0.39と、昨年と同様に報告が多い状態が続いています。



- 3 感染性胃腸炎: 第48週で定点あたり22.73となり、例年に比べて早く警報発令されました。第49週の24.24をピークとして漸減し、第52週には警報解除基準値(12.00)を下回り、第6週は3.78となっています。



- 4 性感染症: 1月は、性器クラミジア感染症は男性が16件、女性が21件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が12件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が7件でした。淋菌感染症は男性が10件、女性が1件でした。
- 5 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第4週0.00、第5週0.25、第6週0.50、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第4週0.00、第5週0.25、第6週1.00、インフルエンザによる入院は第4週5.00、第5週4.50、第6週2.75と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 基幹定点月報: 1月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が2件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点48件、内科定点19件、眼科定点1件、基幹定点22件で、定点外医療機関からは17件でした。

3月9日現在、ウイルス分離54株と各種ウイルス遺伝子4件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	イン フル エン ザ 脳 症	ア デ ノ 感 染 症 *2	耳 下 腺 炎	熱 性 け い れ ん
アデノ 型未同定					1		
インフルエンザ AH3型	1		45	1			1
インフルエンザ B型			3				
パラインフルエンザ 2型	1						
パラインフルエンザ 4型		1					
ヒトメタニューモ			1				
ヒトコロナ*3	1						
ライノ	1						
ムンプス						1	
合計	2 2	0 1	48 1	1 0	1 0	1 0	1 0

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む、*3:HCoV-229E or NL63、HCoV-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2月の感染性胃腸炎は、基幹定点から8件で、腸管凝集性大腸菌(O44:H18、O86a:H+)が2件検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から5件、基幹定点から37件、その他からが43件でした。その他のB群およびG群溶血性レンサ球菌の3株は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。インフルエンザ菌はd型でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(2月)

感染性胃腸炎						
検査年月 定点の区別 件数	2月			2017年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
腸管出血性大腸菌					1	3
腸管凝集性大腸菌		2			3	
サルモネラ属菌					2	2
不検出	0	6	0	0	8	1
その他の感染症						
検査年月 定点の区別 件数	2月			2017年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T4	2		2		
	T6	1		1		
	型別不能	1		1		
B群溶血性レンサ球菌			1			3
G群溶血性レンサ球菌			2			2
レジオネラ属菌						1
インフルエンザ菌	1			1		
肺炎球菌			1			3
結核菌			34			35
百日咳菌		2			2	
その他		35	4		37	8
不検出	0	0	1	0	0	3

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】